

Workcamp in Philippines

Tuburan Tuburan

We wanna stay more Tuburan

Tuburan Tuburan

We wanna go back to Tuburan

Tuburan Tuburan

Salamat Salamat Salamat Tuburan

Ah Tuburan Ah

Tuburan Tuburan

We walked around the town Tuburan

Tuburan Tuburan

We wanna thank you Tuburan

Tuburan Tuburan

We wanna go back to Tuburan

Tuburan Tuburan

Salamat Salamat Salamat Tuburan



 **Tuburan**
Cebu

Summer 2024



Tuburan
coffee

合宿型のボランティアで
リアルな国際感覚を養う〔 国際ワークキャンプ 〕
workcamp in Tuburan



西尾市青年国際ワークキャンプ派遣事業とは
世界の地域課題に対し、現地の住民と共に活動する合宿型のボランティア(国際ワークキャンプ)に、西尾市内の青年を派遣することで、派遣先国の青年と共に活動しながら交流、切磋琢磨することを通じ、将来の西尾市を担う豊かな国際感覚を身に付けた青年を育成することを目的とした事業です。

- 派遣期間
- 2024年8月30日(金)～9月8日(日) 計10日間
- 派遣先
- フィリピン国セブ州トゥブラン市コゴン集落
活動地はセブ市内から約90km、車で約3時間移動した自然豊かなローカルエリア。
- 活動内容
- ボランティア活動 | コーヒー農園での苗作り・収穫作業、竹の植林

■ 現地のシニアスクール(11～18歳の学校)で日本文化の紹介 | けん玉、習字、折り紙など

■ ジャパニーズナイトで日本食の紹介 | お汁粉、お好み焼き、カレーライス、抹茶体験

■ 縁日の開催 | 浴衣の着付け、日本の駄菓子すくい、日本の音楽披露
- 宿泊場所
- トゥブラン市役所、コーヒーファームで働いている家族宅の一部を借用。持参した寝袋で就寝。

■ 食事は団員が現地コーディネーターと共に自炊。現地マーケットで食材調達。



- 団員3期生
- 勝田 梨音 | 大学2年

近藤 梨乃 | 大学3年

坂部 心音 | 大学4年

高木 一成 | 大学1年

高津 亨輔 | 大学2年

富田 理子 | 大学2年

中川 慶人 | 社会人

橋本 芽 | 大学1年

松原 一花 | 大学3年

宮地 真士最 | 社会人
- 引率
- 加藤 瑩介
西尾市 市民部 地域つながり課

井口 育紀
特定非営利活動法人NICE

西尾市長からのメッセージ

「西尾市青年国際ワークキャンプ派遣事業」は本年度が3回目の派遣であり、10名の団員が派遣されました。帰国報告会やSNSでの活動を見ると、どの団員からも非常に充実したかけがえのない経験ができたことが、発言や表情から十二分に伺うことができ、大変嬉しく思っています。

フィリピン人と共に生活し、食や文化の違いを体験するなど日常生活とは大きく異なる環境で濃密な日々を過ごした彼らが、良い意味で世界観が変わり、多様な価値観を尊重できる人材として、西尾市の多文化共生社会を将来的に支えてくれることを期待しています。



なかむら けん
中村 健
西尾市長

2024年
事業スケジュール

出発前	5月1～24日 申込期間		6月3～5日 選考(面接/書類)	
	6月29日 事前研修①		7月21日 事前研修② 8月4日 事前研修③	
	午前		午後	夜
【1日目】 8月30日	中部国際空港 集合		中部国際空港出発 マニラ空港 到着	マニラ空港 出発 セブ空港 到着/市内宿泊
【2日目】 8月31日	セブ市内 出発		トゥブラン市 到着	オリエンテーション (市役所職員との交流) トゥブラン市役所 宿泊
【3日目】 9月1日	トゥブラン市コミュニティツアー			バスケット試合観戦 子どもとの交流
【4日目】 9月2日	トゥブラン市役所での フラッグセレモニー		コーヒー農園作業	トゥブラン市長との食事会
【5日目】 9月3日	シニアスクール訪問		コーヒー農園作業 竹の植林	ジャパニーズナイト
【6日目】 9月4日	コーヒー農園作業		コーヒー農園作業 竹の植林	農家民泊
【7日目】 9月5日	フリーデー			
【8日目】 9月6日	コーヒー農園作業		コーヒー農園作業	お別れパーティー
【9日目】 9月7日	掃除		コゴン集落 出発 ハノイ市内 観光	セブ空港 出発 マニラ空港 到着
【10日目】 9月8日	マニラ空港 中部国際空港 到着/解散			
帰国後	9月20日 事後研修 / 帰国報告会			

トゥブラン市 コゴン集落 Cogon Tuburan



セブ島西海岸に位置し、セブ市から約90km離れた町。タニョン海峡に面し、海岸線、平野、丘陵に富んだ地形が特徴。風光明媚なビーチ、川、泉や歴史的建造物が有名。主産業は農業で米、コーン、ココナッツ等を栽培し、漁業や養殖業も盛ん。トゥブラン市の人口は約68,000人。コゴン集落の人口は約4,300人。

トゥブラン市は「コーヒーの首都」としても知られ、2012年設立の自治体初のコーヒー農園が自慢。当時の市長は、森林を激しく破壊してきた炭焼きや薪集めに代わる、持続可能な生計手段として、農家にコーヒー栽培の研修を行う。現在は、29の村で2,000人超の農家に利益をもたらしている。

フィリピンの受入団体
GIEDについて



GIED (Global Initiative for Exchange & Development) は、2011年設立の国際ボランティアNGOで、セブ島を中心に環境保護や青少年育成などの活動に取り組む。アジアのNGOネットワーク「NVDA」にも加盟し、2016～19年はネットワークの代表を務める。2023年2月に開催された第1回目の西尾市ワークキャンプ派遣事業でもプログラムを受け入れる。



Ms. Yham (ヤン)
GIED職員
引率コーディネーター



Ms. Yen (イェン)
現地ボランティア
元GIED職員

フィリピンでの生活をずっと側で支えてくれた二人！二人の存在は本当に心強くて、YhamとYenの笑顔や行動に勇気付けられました。いつでも前向きな気持ちでいることの大切さを学びました。本当にありがとう！

活動地で
お世話になった人



トゥブラン市長



スティーブ
市長秘書

トゥブラン市長とスティーブにも本当にお世話になりました。トゥブランの歴史のお話、パレードへの招待、食事の提供、バギー体験など現地でしか経験できないことをたくさんさせていただきました。



トゥブラン滞在最終日には、2人に感謝を伝えることができました！

〔 事前研修 〕

ワークキャンプを成功させるために、事前研修を3回実施。派遣前の準備等に一生懸命取り組みました。はじめは団員同士の話し合いで緊張していたメンバーも、研修を重ねるごとに、積極的に話し合いをしていました。

第1回目
6月29日

自己紹介 / ワークキャンプ・旅行手続の説明
現地でのアクティビティ企画 / 市内フィリピン食材店 訪問

初顔合わせ！



ワークキャンプについて
一生懸命学んでいます！



研修後に
フィリピン食材店を訪問！

第2回目
7月21日

西尾市国際交流協会の日本語教室見学・フィリピン人との交流
アクティビティ企画準備の発表 / ワークキャンプ経験者との交流会

西尾市国際交流協会の
日本語教室に訪問！



日本語を
教えるのは難しい...



子どもたちと
たくさん話しました！

1・2期生が体験談を
話してくれました！



1・2期生も一緒に懇親会！

第3回目
8月4日

渡航前の最終確認(アクティビティ、持ち物など) / ワークキャンプの目標設定・発表
フィリピン料理店 訪問

最後の準備！



フィリピン料理を
みんなで食べに行きました！

〔活動拠点はトゥブラン市役所〕

宿泊、食事、ジャパニーズデイなど、たくさんの時間を市役所で過ごしました。市役所の3部屋を借りて、寝袋持参で宿泊。食事はフィリピン人コーディネーターのYham、Yenと一緒にマーケットに買い物に行き、自炊をしました。市役所の横には大きな広場があり、イベントやバスケットボールの試合を開催して賑やかな場所でした。

市役所前



ここに寝袋を敷いて寝ていました！

トイレ



使い方にはすぐ慣れました！

寝室



広場



市長室



市長室にてオリエンテーション！

トゥブランマーケットで食材の買い出し！



買い出し

朝食づくり



油を使う料理は外で調理！



食事

みんなで食事をとります！



皿洗い



食後は分担して片付け！

〔ファームステイも経験！〕

トゥブランコーヒー農園で働いているファミリー宅の一部を借用し、寝袋持参で宿泊をしました。標高が約500mの場所で日中は日差しが強く、朝と夜は気温が下がり涼しい場所でした。家の周りには建物がなく、広大な自然がありました。ファミリーは大人数での訪問にもかかわらず、私たちを温かく受け入れて下さり、現地住民の生活のリアルを体験することができました。

農家民家



トイレはここです！

トイレ



風呂場



ここで体を洗います！

ホストファミリー

ファミリーとも仲良くなれました！



皿洗い



西尾市国際青年ワークキャンプ派遣団
公式Instagram

3期生派遣に関しては50投稿！団員の自己紹介、現地での活動の様子、帰国後の活動の様子などを発信しています。ぜひ、チェックしてください！



@nishio_workcamp

1・2期生の活動も投稿されています！

1期生



フィリピン共和国パンパン村

2期生



ベトナム社会主義共和国ブオック村

〔 ボランティア作業 〕

トゥブランのコーヒーは、フィリピン政府がコーヒー栽培の発展を支援するほど有名です。ボランティア作業は現地からの要望で、主にコーヒー農園で苗作り、収穫作業を行いました。また、コーヒー農園周辺では景観保全のため、竹の植林作業にも力を入れていました。苗作り、急斜面に竹苗を埋めるための大きな穴を掘るなどの植林作業のお手伝いもしました。

コーヒー農園での
苗作り・収穫

コーヒー苗を
ポットに挿しています

トゥブランコーヒー

トゥブラン市でコーヒー栽培が発達したのは2012年からです。これまで森林を破壊してきた炭焼きや薪集めに代わる、高地での持続可能な生計手段を生み出すために自治体がコーヒー農園を開園しました。現在はトゥブラン市の29の村で約2,000人のコーヒー農家に利益をもたらしています。市内にはカフェもたくさんあり、コーヒーが市民にとって身近な存在となっていました。



苗作り

コーヒー苗を切っています

お昼ごはん

収穫

収穫したコーヒー豆！

朝作ったお弁当を
お昼に食べました！



ポットを運搬中！

コーヒー苗



SDGsの観点から見た本事業



森林破壊を止め、持続可能な生計手段となる新たな産業(コーヒー栽培など)に寄与しました。



自分の常識や当たり前が通用しない世界を経験することで、国際感覚を身に着けた青年を育成し、多文化共生の社会を目指します。



現地の住民と生活や活動を共にするワークキャンプを通して、多様な価値観や文化の違いを学び、共働を目指します。

竹の植林

苗作り

竹苗を植えています！

植林道

定植

竹苗を植えています！

穴掘り

穴を掘っています！

最後にみんなで
集合写真を撮りました！

〔町の子どもたちとの交流〕

トゥブランでワークキャンプが開催されたのは西尾市の派遣団が初めてでした。そのため現地の子どもたちも外国人に触れる機会がほとんどなく、日本の文化紹介、日本食の体験に興味津々になっていました！子どもたちが笑顔で積極的に交流をしてくれて、本当に嬉しかったです。子どもたちの笑顔が忘れられません！

学校訪問

現地のシニアスクール(11～18歳の学校)に訪問し、習字・折り紙・けん玉・授業実験を通して、日本文化の紹介をしました。



授業実験



授業をしました！



習字



折り紙



折り紙を教えたよ！



名前をひらがなで書いてもらいました！

ジャパニーズナイト

お好み焼き・カレーライス・抹茶・お汁粉の日本食を紹介しました。縁日の開催では、浴衣の着付け・日本の駄菓子すくい・日本の音楽紹介をしました。

日本食



お好み焼きも！

カレーが大人気でした！

着付け



浴衣の着付けをしました！



縁日



お菓子すくいでも楽しんでもらいました！

みんなで歌って踊りました！



バギー体験

トゥブラン市長のご厚意で、バギーツアーをさせていただきました！コーヒー農園周辺は、本当に自然豊かで壮大な景色が広がっていました。川の中をバギーで進んだり、ツアー中の道では現地住民の生活を見ることができ、貴重な体験ができました。



〔その他のアクティビティ〕

ワークキャンプ中には、ボランティア活動以外にもフィリピンならではのアクティビティを楽しむ機会がありました。

モロボロスプリング

トゥブラン市にはモロボロスプリングという有名な泉がありました！泉の隣にはビーチもあり、心身共にリフレッシュすることができました。



お店での食事

現地の屋台やコーヒー農園唯一のカフェで食事をする機会もありました。フィリピン特有の串焼きやフィリピン料理を堪能できました！





〔 事後研修・帰国報告会 〕

派遣後の9月20日に事後研修および帰国報告会を行いました。団員それぞれがワークキャンプを振り返り、学びを共有しました。今後の活動にも視野を広げて話をすることができました。

帰国報告会では中村市長にも帰国報告をしました！

その他のイベント参加

派遣後にも、ワークキャンプに関わる様々な活動をしました！この事業がたくさんの人に広がるように、今後も活動を続けていきます！

コーヒーイベント

西尾市のまちなかにぎわいパートナー事業の「月々は珈琲」にワークキャンプ派遣団ブースを出展！トゥブラン産のコーヒーの試飲会とパネルなどを使用した活動報告をしました！



SDGs EXPO出展

10月10～12日までに愛知県国際展示場で行われた「SDGs AICHI EXPO 2024」に出展しました！ブースではワークキャンプについてSDGsの観点で説明をし、さまざまな人にこの事業について知ってもらうことができました。



西尾市国際交流協会のイベント

西尾市国際交流協会のPRをしたり、体験型ゲームコーナーのスタッフとしてボランティアに参加しました！



TUBURANの曲に込めた想い

ワークキャンプでお世話になったトゥブランの皆様への感謝の気持ちを何か形に残したいと思い、この曲を書きました。歌詞は日本語・英語・ピサヤ語の3つの言語で作詞し、レコーディングでは引率の2名も含めた全員の音を収録しました。派遣をしてくださった西尾市への感謝の気持ちとして、西尾駅の駅ピアノの音も収録しています。

楽曲配信サイトへは
こちらから



TUBURAN

作詞/作曲 マッシモ (宮地真士最)

台風飛び越え出会った
青い空とハロハロにSay Hello
始まったばかりのストーリー
海を越え山越えあの街へ

コーヒーショップにバスケットボール
素敵なお出迎えをSalamat
輝く瞳とその笑顔
僕はこの街が好きだ

その目に映る世界を僕にも見せて
緑の山のその先にある物見せてよ

Tuburan Tuburan
We walked around the town Tuburan
Tuburan Tuburan
Show me your town Tuburan
Tuburan Tuburan
Salamat Salamat Salamat Tuburan

コーヒーファームでワークデイ
愛を込めて手摘みのコーヒーを
きっとあなたも気に入るはずさ
ブラウンシュガーはいかが？

僕らの事も君に知ってほしいな
今夜はパーティー朝まで歌うよ故郷の歌

Tuburan Tuburan
We wanna stay more Tuburan
Tuburan Tuburan
We wanna go back to Tuburan
Tuburan Tuburan
Salamat Salamat SalamatTuburan
Ah Tuburan Ah

Tuburan Tuburan
We walked around the town Tuburan
Tuburan Tuburan
We wanna thank you Tuburan
Tuburan Tuburan
We wanna go back to Tuburan
Tuburan Tuburan
Salamat Salamat Salamat Tuburan



かつだ りおん
勝田 梨音

将来の夢は外国語を活かした仕事をする！特技は書道とバレエです！

ワークキャンプ派遣を終えて

私は以前からアジアについて興味があり、大学ではアジア学科に在籍しています。大学の講義などでアジアに関するさまざまな話を聴くうちに、アジアの文化を実際に体験し、学んでみたいと強く思うようになりました。また、それらに対する理解を深めたり、海外の新しい環境に対する適応力を養ったりしたいと思い、このワークキャンプに参加しました。

実際にフィリピンの生活が始まると、生活習慣や文化など、日本とは異なる部分が多く、10日間も生活することができるのかと初めはとても不安に感じていました。しかし、フィリピンの人々の優しさに触れ、自分には何ができるのかを考えて行動することで新しい環境に適応できました。ある日突然、宿泊先の水道が夜間断水すると言われ、とても驚き、不安を感じました。みんなで夜間に使うための水を買足しに行く際、急に雨が降り、水のありがたさを実感しながら雨に濡れました。何ごともポジティブに考え、現地の環境に適応できました。日本では当たり前のようにシャワーや水洗トイレが使えます。水道水も加熱しなくてもそのまま飲めますが、海外ではそれらが当たり前ではなく、日本がいかに便利かを改めて知る機会となりました。また、フィリピンの生活習慣や文化に対する理解を深められたと思います。

コーヒー農園での活動の際、農家の方たちとは英語でのコミュニケーションをとることができず、戸惑うこともありました。しかし、ジェスチャーや表情などでコミュ

ニケーションをとり、交流することができました。私自身にとって言語以外の手段でコミュニケーションをとることができるということを改めて実感できたワークキャンプとなりました。しかし、外国語学部に所属している以上、言語の勉強はこれまで以上に熱心に取り組んでいきます。言語力かつ今回のワークキャンプで身につけた適応能力を自分の強みだといえるような人になりたいです。

私は幼い頃から書道と日本舞踊を続けています。現地の学校に行って一緒に書道をしたり、ジャパニーズカルチャーナイトでは浴衣を着てみたいと話しかけてくれた子どもたちに浴衣を着付けてあげたりすることができました。自分自身の得意なことを生かして現地の方に喜んでもらえたのはとても嬉しく、自分に自信がつけました。少しでも現地の方に日本の文化について興味をもってもらえたらと思っています。

今回のワークキャンプを通して、今まで以上にアジアに関心をもちました。アジアに対する視野が確実に広がり、私自身大きく成長できたと感じています。これからはアジアだけでなく、世界に視野を広げ、ものごとを考えていきたいと思っています。日本とは異なる文化や環境で困難にぶつかった際には、今回体験したことや学んだことを生かし、広い視野や柔軟な考えをもって行動していきたいです。また、西尾市国際交流協会のイベントやボランティアに積極的に参加し、様々な国の人々に対する理解や私自身の見識をさらに深め、国際的な関わりをもてようになりたいです。

現地での活動はこのメンバーでなければできなかったことがたくさんあります。充実した10日間を過ごすことができ、とても意味のある体験になったのはこのメンバーのおかげです。この出会いに感謝しています。これからもみんなで交流を続け、西尾市の多文化共生に貢献していきたいです。



こんどう りの
近藤 梨乃

趣味は旅行とフィルムカメラ！
現地でも思い出に残る写真がたくさん撮れました！

トゥブランでの貴重な学びと出会い

私は大学で国際関係の学部 zu 所属しており、授業では世界情勢や現代の問題についてディスカッションする時間が多くあります。そのため、自分の恵まれた環境に日々気づかされています。留学での海外生活を通じて、国際感覚をある程度備えているつもりでしたが、先進国にしか訪れたことがなかったため、先進国以外の生活を考えるのが難しいと感じていました。そこで、自分の目で現地の状況を確認め、現地の人との交流やボランティア、日本とは異なる生活を通じて、異文化理解をさらに深めたいと思い参加しました。

渡航前の研修では、応募動機を振り返り、それぞれ目標を立てました。私が設定した目標の一つは、「現地の人たちと交流し、仲を深める」ことです。この目標を持つことで行動の指標となり、自分から積極的に話しかけることができました。

現地では、同世代の人たちと関わる機会が多く、バイクの後ろに乗せてもらったり、カフェで話したり、カラオケをしたり、一緒にお酒を飲んだりして、とても楽しい時間を過ごしました。英語を使ってコミュニケーションをすることで、お互いについて知ることができ、仲を深めることができました。現代ではGoogle翻訳などのAIを使って会話することも可能ですが、相手の目を見て自分の言葉で伝えることの良さと大切さを改めて実感しました。最初は久々の英会話で緊張していましたが、最終日にはタクシーの運転手さんと身の上話をするほど自然に会話で

きるようになり、成長を実感しました。

また、英語を話さない人と関わる際は、ジェスチャーや簡単な単語を使ってコミュニケーションを図ることができました。農家さんの家に泊まった際、お父さんが全く英語を話さなかったため、意思疎通に苦労しました。

しかし、持ってきたあやとりを使ってコミュニケーションを試みたところ、逆にお父さんが複雑な技を見せてくれました。私たちはフィリピンでもあやとりのような遊びがあったことを知らず、お父さんの自身満々な表情に驚きました。この出来事によって、お父さんが笑顔を見せてくれ、一瞬にして心が繋がったように感じました。

トイレ・お風呂の使用方法や食文化など、フィリピンでの生活は日本と異なる部分がたくさんありました。しかし、トゥブランの人々には日本人に似たところがあると気づきました。農家の方や町で出会った多くの人は最初とてもシャイでしたが、親しくなると次第に明るくなり、優しさに溢れていました。

ジャパニーズナイトで出会ったBreeという女の子も、最初は恥ずかしがっていて、あまり私たちと話そうとしませんでした。しかし、徐々に心を開いてくれ、日本が大好きで日本の曲を歌えることや、学校についての話をしてくれました。最終日にはブレスレットをくれ、「あなたは出会った中で1番クールな日本人だよ」と言ってくれ、とても嬉しかったです。

苦労した経験として通訳を任されたことがあります。旅行でのコミュニケーション以外で、第一言語が英語でない人たちと話すのは初めてでした。授業で英語を話すのと実践で英語を話すのでは全く異なり、通訳をする際に最初はそのまま英語を日本語に変換しようとして苦戦しました。しかし、国によって使われる単語や文法、アクセントが異なるため、それらを考慮して通訳や会話をする必要があると気づきました。また、相手によって英語の習得度が異なるため、使う単語や話す速さを調整することを意識しました。良いコミュにケーションとは、一方的に自分の知っている言い回しをすることや言語的的確さではなく、相手に分かりやすく話すと同時に、どうい



とを話者が一番伝えたいと思っているのかくみ取ることだと学びました。

今回学んだことや感じたことを、これからの大学での勉強や西尾市に住む外国人のために役立てていきます。そして、将来的には今回培った国際感覚を活かして海外を舞台に多種多様な人と関わる仕事がしたいです。たくさんの方との出会いや初めての経験を通して、視野を広げることができ、今までの旅行や留学とは一味違うかけがえのない10日間になりました。このワークキャンプに参加して本当に良かったです。

食事は揚げ物、炒め物が多い！

目玉焼きでも、ウインナーでも大量の油を使い、揚げ焼きしていました！それでもくどくなく、お米と合いました！味付けも日本人によく合うと思います！



日本でもお馴染みのハロハロ！

タガログ語で「混ぜこぜ」という意味で、さまざまな甘い食材が入ったかき氷デザート。

column / Foods

フィリピンでの食事

どれも初めて食べるものばかり！
異国の食べ物に挑戦するのも、楽しい体験でした！

フィリピンといえばフルーツ！

マンゴー、マンゴスチン、
ドリアンなど、フィリピンで
食べたフルーツはどれも
おいしくて最高！



マンゴー



マンゴスチン



孵化直前のアヒルのゆで卵

「パロット」という孵化
直前のアヒルの有精卵を
茹でたものを食べました！



坂部 心音

趣味は旅行！フィリピンで一番
おいしかった食べ物はレチョンと
マンゴスチン！また食べたいです！

豊かさのあり方とワークキャンプの意義

私は、学生生活最後の夏休み、十分な時間や体力のある学生の内にかけがえのない経験がしたいと思い、参加を希望した。自分の意志で応募したのにもかかわらず、フィリピンで10日間滞在する上で、虫や衛生面に耐えられるか、正直不安であった。しかし、ワークキャンプから帰ってきた今、貴重な経験や仲間ができ、参加してよかったと心から思う。

私は、今回のワークキャンプを通じて、主に豊かさの在り方とワークキャンプの意義の二つについて学ぶことができた。

私は、トゥブランに着いた初日、限られた水、お湯、シャワーなしといった現地の環境に衝撃を覚えた。それと同時に、蛇口を捻れば好きなだけ水が使える、お湯が使える、ネットが使える、エアコンの効いた涼しい部屋で過ごすことのできるインフラ環境の整った日本は、恵まれており、なんて豊かな国なのだろうと思った。しかし、トゥブランでの生活は、過ごしてみれば慣れていくもので、体調を崩すこともなく、案外快適であった。

現地での生活や子供たちの交流を通じて、トゥブランの子供たちが可哀そうであったり、不幸であるとは決して思えなかった。学校での授業中にみた笑顔やプラザで一緒に遊んだときの楽しそうな笑い声は豊かさそのものであると感じた。そのため、豊かさとは恵まれた環境とイコールではないし、全人類共通のラインがあるわけでも

ない。豊かさとは、各個人が決めるもので、人々との関わりやつながりが大きな部分を占めるのではと考えるようになった。

また、私はワークキャンプに参加以前は、「何かをしてあげる」ことがワークキャンプの目的だと思っていた。しかし、「何かの提供」で人々の笑顔がさらに増えるとは限らないし、現地の人は「何かの提供」を本当に必要としているとは限らないと思った。なぜなら、現地の方々と農作業を行い、実際に農家の方のお家に泊まらせていただいたことで、食器の洗い方やお風呂の使い方など様々な日本との文化の違いを肌で体感したからである。現地には現地の文化があるため、押しつけは絶対にしてはいけないと思った。地域のニーズは地域の文化や生活を学び、地域の人々と一緒に考え、話し合って決めるべきだと強く思った。そして、一緒に考え、得たニーズをもとに、共に協力して活動していくことこそがワークキャンプの意義なのではないかと考えるようになった。

これからは、このワークキャンプに参加しなければ得られなかったかけがえのない経験を多くの人に伝え、西尾市の多文化共生社会の発展に貢献していきたい。





たかぎ いっせい
高木 一成

趣味は旅行と中日ドラゴンズを応援すること！次は台湾の文化や風景を見たい！

異文化とスポーツでつながる絆

2024年3月、私は初めての海外旅行でベトナムのハノイに行きました。そこでは異なる文化や言語に触れる機会が多く、これまでの人生に無かった経験をしました。例えば、日本ではコメを使った料理が多いですが、ベトナムではフォーやバインミーといった小麦を使った料理が多かったことや、カフェ巡りをしてエッグコーヒーという日本では珍しいコーヒーを飲んだことが挙げられます。

この経験から、もっと多くの国の食文化やコーヒー文化を知りたいと思うようになりました。そこで今回のフィリピンでのワークキャンプについて知り、参加してみたいと思いました。

派遣中の最も印象的な出来事の一つは、現地の子どもたちと一緒にバスケットボールをしたことです。スポーツを通じて、言葉の壁を感じることなく、一緒に楽しむことができました。この活動を通じて感じたのは、スポーツが言葉や文化を超えて人々をつなげる力があるということです。バスケットボールの試合をきっかけに、子どもたちと自然に会話が生まれ、そこから友情が芽生えました。この時、異文化交流の手段としてスポーツを積極的に活用していきたいと思いました。

また、現地の学校で行った書道と折り紙の教室も非常に印象的でした。特に、折り鶴の作り方を子どもたちに教えた際、一回の説明ですぐに自分の力で鶴を折れるようになった子どもがいたことは本当に驚きました。子どもたちの吸収力には感心し、改めて教育が与える力の大き

さを実感することができました。

また、私自身も最初は折り鶴の作り方を完璧に覚えていたわけではなく教える過程で一緒に学びながら進めました。このような相互学習のプロセスを通じて、教育とは一方的なものではなく、共に学びあうことで成長するものだということを実感しました。

さらに、コーヒー農園での体験も忘れられない思い出の一つです。コーヒーの苗を植える作業から始まり、収穫、焙煎までの一連の流れを体験することで、コーヒーがどのようにして育ち、コーヒーとなるのかを深く理解することができました。これまでコーヒーに対してそれほどこだわりを持っていなかった私ですが、この体験を通じてコーヒーの奥深さを知り、これからはコーヒーに対する興味をさらに深めていきたいと思うようになりました。特に、フィリピンで学んだことを活かして、世界各地のコーヒー文化を味わいながら旅をするという新たな目標も生まれました。

もちろん、全てが順風満帆だったわけではありません。私は夜、ファームステイ先で寝ようとしていたときに蜂に刺されてしまいました。幸いなことに、周りの人々がすぐに対応してくれ、薬や消毒を施してくれたおかげでなんともなりませんでした。

この出来事は、異国の地でのサバイバル力や適応力を試される場面でもありました。この出来事を乗り越えたことで、自分に対する自信も少しずつついてきました。

さらに、飛行機での耳の痛みにも少し苦労しました。飛行機の中で何度か耳が痛くなり、その影響で自分の声が変に感じることもありました。これに対する事前の対処法をもっと知っていれば、もう少し快適に過ごせたかもしれません、これもまた一つの経験です。

まとめ

今回の派遣活動を通じて、私は単なる異文化体験を超えて、自己の成長と未来のビジョンを見つける大きなきっかけを得ることができました。異国の地での経験は、言葉や文化の違いに対する挑戦だけでなく、私自身がこ

れまであまり意識していなかった自分の限界や強みを引き出す場でもありました。フィリピンの人々との触れ合いや、子どもたちとの交流、そしてコーヒー農園での体験は、それぞれが私にとって貴重な学びの場となり、自分が今後どのように社会に貢献していくべきか、そしてどのように国際的な視点を持ち続けるべきかを考える重要な出来事となりました。

特に、今回の経験を通して、「異文化理解」は実際に行動を通じて理解を深めていくのだと実感しました。異文化の中に飛び込み、現地の人々と直接交流することで、私たちはお互いの違いを受け入れ、尊重し合うことができるのだと感じました。例えば、現地の子どもたちとスポーツを通じて心を通わせたり、折り紙や書道の授業で共に学び合ったりする中で、言葉が通じなくても絆を深め合えるということを学びました。

最後に、私が今回学んだことを西尾市のなかで活かしていきたいです。派遣中に感じたスポーツや文化を通じての交流の力を、西尾市での地域活動にも反映させたいと強く思っています。異文化交流は、遠い国でしかできないものではなく、私たちのすぐ身近な地域社会でも可能であり、外国人市民の割合が他の市より多い西尾市では行動に移しやすいと思います。バスケットボールや他のスポーツ、さらにはコーヒー文化や伝統的な日本の文化を通じて、地元の人々と外国人住民が互いに学び合える環境を整えたいです。苦楽を共にした最高の仲間たちと再び協力し、これを実現していきたいです。



たかつ きょうすけ
高津 亨輔

ワークキャンプでフィリピンは私にとって第2の故郷になりました。I love Tuburan!

僕の第2の故郷

僕は、このワークキャンプで内面だけでなく人間としてもひと回り、ふた回り大きく成長することができました。19年間の人生で一番の思い出です。そう思える理由はいくつかあります。

1つ目は、誰とでも仲良くなれる力を得たことです。フィリピンに行くまでは、人見知りで自分から声をかけることがなかなかできませんでした。しかし、あるきっかけを通じて、誰とでも仲良くなれるようになりました。

そのきっかけは、学校訪問です。40人ほどの前に立ち、折り紙の折り方や習字を教えることになりました。人前で話すのが苦手な上、英語もろくに話せなかったのと、とても不安でした。しかし、勇気を振り絞って笑顔でカタコトの英語やジェスチャーを交えて伝えたところ、現地の子どもたちが協力してくれて、みんな楽しそうに授業を受けてくれました。自分もやればできるということが分かり、自信を持つことができました。その後のフィリピンでの活動でも、英語がほとんど話せない中、とにかく笑顔と身振り手振りでコミュニケーションを取るよう努力しました。そのおかげで、フィリピンにたくさんの友達ができることができました。日本語が通じない国でコミュニケーションを取ることができたのは、自慢できることです！

2つ目は、行動力が身についたことです。派遣に参加する前は、失敗を恐れて行動できないことが多かったです。この派遣に応募する際も、「面接に失敗して落ちるのではないか」と不安に感じていました。しかし、この派遣を通



じて、挑戦することの楽しさに気づくことができました。10日間の活動では、血洗いや料理の手伝いなど些細なことから、大勢の前でのパフォーマンスまで、積極的に行動できるようになりました。日本に帰ってきてからも、これから挑戦することがたくさんあると思いますが、その際、失敗してもくじけずに何度でも挑戦していきたいです。

フィリピンで出会った人たちは、毎日笑顔で楽しそうに過ごしていて、笑うことの大切さを学びました。特にフィリピン人コーディネーターのイェンはずっと笑顔で、この旅では彼女の笑顔に何度も助けられました。僕はこの旅を通じて、フィリピンが本当に好きになりました。料理、景色、人々、すべてが魅力的です。これから何度もトゥブランを訪れて、もっともっと知りたいです。そして、就職してお金に余裕ができれば、フィリピンの友達を日本に招待するのが夢です。

次にフィリピンに行った時には、言葉でもコミュニケーションを取れるように、最近は英語の勉強にも力を入れています。セブ市の言語のビサヤ語も、トゥブランの友達とビデオ通話で教えてもらっています。「あなたを愛してます」をどう言うか、教えてもらいました！

この旅を振り返ると、10日間は短すぎて、もっと時間が欲しかったです！今では、フィリピンに移住することも真剣に考えてしまうほど、フィリピンを愛しています。

この旅を支えてくれた仲間にも、心から感謝したいです。かけがえのない仲間と過ごした時間は、僕にとって宝物です！これからも、自分の夢に向かって挑戦し続け、人生を楽しみたいです。



とみた りこ
富田 理子

将来の夢は途上国の教育に携わること。全ての子どもたちが笑顔でいられる世界を目指します！

Tuburanで過ごした かけがえのない10日間

このワークキャンプでは、非常にかけがえのない思い出を創ることができ、また、自分を見つめ直す良い機会になりました。私は、旅行が好きで、長期休暇の際に海外旅行によく行きます。綺麗な景色を見たり、現地の食事を食べたり、旅行には沢山の魅力があります。ですが、旅行中、現地の人との関わりが少ないことに時々、物足りなさを感じるようになりました。買い物や食事の時に少し言葉を交わすだけではなく、同じ目線に立って、もっと仲良くなって話したいと思うようになりました。

そのように感じていた時、市の広報からこのワークキャンプが開催されることを知りました。もともと日本でのボランティア活動経験から、海外でのボランティア活動にも興味を持っていたこともあり、迷わず応募しました。ボランティア活動を通して、自分が少しでも現地の力になりたいと思いました。無事派遣されることが決まり、早く現地のリアルな生活を体験したいとワクワクした気持ちでいっぱいでした。

私は、このワークキャンプを通して、2つの目標を掲げました。

1つ目は、日本の魅力をフィリピンで伝えることです。特に、特技である習字や折り紙などの日本の伝統的な文化を伝えたいと思いました。また、単に文化を紹介するだけでなく、現地の人たちを巻き込んだ企画を考えることを意識しようと思いました。

2つ目は、周りの人と積極的にコミュニケーションを

とることです。現地の人だけでなく、一緒に派遣される団員たちともコミュニケーションを取り、助け合って共同生活を送りたいと思いました。

派遣を終えて、掲げた目標のどちらも達成することができたと感じています。特に、ジャパニーズカルチャーナイト(日本の文化を伝える会)を自分たちで企画し、実践した時のことを思い出します。限られた人手の中、一人ひとりが自分のできることを行い、協力して成功させることができました。浴衣を着付けてあげたときに、子どもたちがとても喜んでくれたのがとても印象的でした。一人の子をきっかけに次々と着付けして欲しいと頼まれ、手が足りなくなったのも良い思い出です。子どもたちが、浴衣を着て扇子を持って、音楽に合わせて踊ってくれた時、日本の素敵な文化を、遠く離れたフィリピンで紹介できたことをとても嬉しく思いました。そこで仲良くなった子どもたちとは、今でも連絡を取っており、子どもたちと過ごした時間は忘れられません。またトゥブランに行きたいです。

そして、日常生活では団員同士で助け合い、食事から洗濯まで、協力して行うことができました。時には、体調を崩してしまうこともありましたが、お互いがお互いを気遣い、だんだんと打ち解けることができました。最終日は皆と別れるのがとても寂しかったです。毎日楽しく生活できていたのも、一緒に頑張ったメンバーたちがいたからこそだと感じています。

派遣前は、私が力になると意気込んでいましたが、現地へ行ったら私達の方が助けられることが多かったです。自分ができることの少なさに、もどかしさを感じたこともありました。いつも近くで私達をサポートしてくれたイェンとヤアンには感謝してもしきれません。二人は、いつも笑顔でどんな時も助けてくれました。二人の笑顔にいつもパワーをもらい、笑顔でいる大切さを教えてもらいました。二人の他にも、多くの人のサポートのおかげで毎日を過ごせられたと思っています。フィリピンの人達のいい意味で周りを気にしない、陽気でおおらかな性格が大好きになりました。私は、これまで完璧主義な部分が

ありました。そのせいで、悩まなくてもいいところで悩んでしまうことが多くありました。ですが、フィリピンの人達の人柄を見て、自分の気にしていたことがいかに小さなことだったのかに気づかされました。これからは周りを気にせず自分らしくいきたいと思います。

トゥブランで過ごした10日間は、間違いなく私のこれからの人生に影響を与えるものになりました。旅行とも、留学とも全く異なる特別な経験をすることができましたし、自分の住んでいた世界がどんなに小さいものだったのかを痛感しました。それと同時に、もっと自分の見たことのない世界を見たいと思いました。

また、10日間を通して、自分のこれからの人生を見つめ直すことができました。これまで、自分が本当にやりたいと思っていることは何なのか考えることが多くありました。それがこのワークキャンプで少し明確になった気がしています。村の学校での活動や宿泊地の近くに住む子どもたちとの関わりから、やはり私は子どもと関わるのが好きなんだと気づきました。子どもたちのきらきらとした目を見て、私の方が元気をもらえました。

一方で、日本とは全く異なる環境で生活する子どもを目にする機会もあり、複雑な気持ちになりました。そんな子どもたちの力になれる仕事をしたいとそこで感じました。現在、大学で教育学を学んでいるため、将来は教育の分野で国際的に活躍できる人物になりたいです。このトゥブランでの素敵な経験を第一歩として、自分の将来に向かって進んでいきます。





なかがわ けいと
中川 慶人

趣味は無人島と読書です！プログラミングやIT、無人島の先生をしています！

普通の旅行では体験できない濃い体験！ 最高のTuburan派遣

初の海外で10日間！

修学旅行の中止やコロナウイルスの影響で、これまで海外に行く機会を逃していたので、今回の派遣が初めての海外経験となりました。いきなり10日間の長い滞在でしたが、結果的に非常に楽しく、充実した経験になりました。

セブ市街地での初日

初日は移動がメインで、セブ市街地で宿泊しました。当日まで普通のホテルだと思っていたのですが、実際はユースホテルのような簡易宿泊施設でした。ロビーには野良犬や野良猫がいて、正直「これから1週間以上ここにいるのか…」と少し帰りたくなりました。それでもエアコンがあり、シャワーも使用できたので、無事に眠りにつき、次の日を迎えました。

スーパーに寄って、Tuburanへ

翌朝は7時ごろ起床し、現地のカフェで朝食をとり、スーパーに寄ってから活動地のTuburanへ向かいました。スーパーでは見慣れない食材が多く、すごく楽しかったです。特にランブータン、マンゴスチン、ドリアンなど現地でしか食べられない新鮮なフルーツを購入しました。その後、山道を走りながらTuburanへ向かいました。途中、スクールに見舞われましたが無事に到着しました。雨の影響で農園に泊まることができなくなり、市役所に急遽宿泊することに決まりました。その後、市長の秘書や市

長の息子さんからTuburanのこと、地元名産コーヒーのこと、日本軍の支配時代の話などを聞き、歴史についても学ぶ必要があると感じました。

コーヒー農園とアクシデント

3日目ようやくコーヒー農園に行くことができました。この日は見学のみで、翌日から本格的な作業が始まるのでした。現地のマーケットで食材を買い出し、フィリピン料理を作りましたが、魚市場の強烈なにおいに少し酔いそうになりつつも、楽しい体験でした。農園では美しい景色に囲まれながら、コーヒーを飲んだり、現地のカフェで食事を楽しんだりしました。念願のドリアンもこの日に食べることができました。残念ながらこの日も雨の影響で農園に泊まれず、市役所に戻りました。夕食にはお祝いの料理として「レチョン(豚の丸焼き)」をご馳走になりましたが、動きすぎて気持ち悪くなってしまい、あまり食べられなかったのが心残りです。



体調不良と復活

3日目の夜から4日目朝にかけて体調不良になってしまい、4日目は休養することになりました。激痛足つぼマッサージを現地コーディネーターにもらったおかげで、翌日には元気になりました。

学校訪問では、現地の子どもたちに日本で長く続く、子どもの楽しいを大切にする授業「仮説実験授業」を行いました。言語の壁を感じつつも、子どもたちは楽しんでくれて、授業の改善点も見えたので、次回やるときはもっと良い授業をしたいと思います。また日本の伝統的な遊びで

ある「こま」や「けんだま」も一緒に楽しみました。

その日の夜には、日本文化の紹介イベントがありました。飾りつけを行い、日本のカレーやお好み焼き、グリーンティー、駄菓子などの食べ物を提供し、着物の着付け体験も行いました。子どもたちは楽しそうに、そして、美味しく日本の文化を味わってくれて、こちらもとても楽しい時間を過ごすことができました。少しではありますが、日本のことを知ってもらえたことが嬉しかったです。

貴重な経験ファームステイ

農園でのワークを行った後、農家さんの家に宿泊させてもらうことができました。家は、まるでテレビで見る海外の田舎の家そのもので、最初は「ここに本当に泊まるのか」と少し覚悟が必要でした。寝る場所にはハチやたくさんのアリがいて、風呂もほぼ外にあり、樽に溜めた水を使う形でした。農家の家族は、料理を作ってくれたり、部屋やキッチンの使い方も優しく教えてくれて私たちが快適にすごせるように気遣ってくれました。振り返ると、自分では決して行けない場所での貴重な体験ができたと思っています。

コーヒー収穫とお別れ

最終日にはコーヒーの収穫を体験しました。手摘みでコーヒーを収穫する大変さを実感し、日常的に飲んでいるコーヒーがどれほどの労力をかけて作られているか実感しました。

最後の夜はフィリピンの文化紹介で、現地の料理や踊りを楽しみました。子どもたちとの別れは特に寂しく、涙を流してくれる子もいて、すごく名残惜しい夜でした。

まとめ

体調不良などのトラブルはあったものの、Tuburanでの滞在は非常に良い経験になりました。今回の経験を通じて、コーヒーを介した国際交流や、両国の文化的なつながりを広げていきたいと思いました。



はしもと めい
橋本 芽

初の海外経験がトゥブランでした！コーヒーの苦手な私でも最高の思い出ができました！

笑顔

私がこの10日間の体験の中で一番印象に残っていることは、フィリピンの人たちの“笑顔”です。

私はこのワークキャンプが初めての海外経験だった為、言語、生活様式、食べ物など多くの不安を抱えながらフィリピンを訪れました。トゥブランを訪れる前にトゥブランには日本人が訪れたことが無いと聞いていたので、トゥブランの人達が私たちを受け入れてくれるのか不安が凄く大きかったです。しかし、そんな不安をよそにトゥブランの方々は私たちを快く笑顔で迎えてくれました。

私たちがトゥブランの生活のほとんどを過ごした市役所では急な変更ばかりだったのにも関わらず、食事を提供してくれたり、朝の挨拶の言葉を掛けてくれたり、毎日農園に行く時に見送りをしてくれたりと常に私たちを気に掛けてくれました。

毎日のように訪れた農園では英語が通じず、お互いに話している事がわからない状況でも嫌な顔一つせずに作業を教えてくださいました。また、ファームステイでお邪魔したお宅では14人という大人数でお邪魔したにも関わらず、常に笑顔でお家を貸してくださいました。

毎日のように遊んだ子供達の笑顔と最後に流してくれた涙は一生忘れられない貴重な記憶です。私達が日本から持って来たお菓子や浴衣に興味を示してくれ、お好み焼きやカレー、おしるこの日本食を美味しくそうに食べてくれる姿はとても印象に残っています。10日間よりも短い期間だったのにも関わらず、別れを惜しんで泣いてくれたり、日本に帰っても連絡を取り続けてくれたり彼らの心の広さには本当に心の底から感動しています。

また、フィリピンでの生活をずっとそばで支え続けてくれたコーディネーターのヤムとイェンの存在は凄く心強くて、二人の笑顔といつでも明るい様子に本当に何度も助けられました。いつもメンバーの体調を気に掛けてくれたり、どんなことにもチャレンジする姿やどんな人ともすぐに打ち解けて仲良くなる姿は本当に尊敬しています。

また、キャンプ中に私の拙い英語で質問した「イェンがボランティアを続ける理由は？」という質問に対して、私に分かるようにゆっくり「私がボランティアをするのは新しい人に出会ったり、新しい事に経験できるから。やすさん(NICE引率)のようになって若い子たちがもっとボランティアに参加してくれるように手助けしたい。あなた達もこのボランティアだけでなくもっともっと色々なことに挑戦し続けて欲しい。」と話してくれました。このイェンの言葉を聞いてこのボランティアに参加して良かったと思えし、イェンに出会えて良かったと思いました。

そして、事前研修からずっと一緒に支え合ってきた12人のメンバーの笑顔や優しさにも沢山支えてもらいました。それぞれの個性が強く、年齢も大学も全然違うメンバーで、このワークキャンプに参加しなければ絶対に関わる事の無い様な貴重な出会いだといまでも感じています。それぞれがそれぞれの目標を持って、一人ひとりが本当に芯のある人達ばかりで彼らのおかげで成長出来た部分も数多くありました。

このように10日間の中で多くの人の笑顔に触れる事が出来ました。日本との生活様式の違いから辛いことや大変なことも少なくなかったですし、不安が完全に消える事はなかったけれど、それ以上にフィリピンに来て良かったと思えることが沢山ありました。いつも何かする前に諦めて、自分から動く事が苦手だったけれど、一歩踏み出して良かったと今ではそう思えます。こんな貴重な経験をさせてくれる事業に出会えて良かったです。この経験をもとにこれからもっと多くの経験をしていけるように挑戦し続けたいです。今まで生きて来た中で一番の経験でした。



まつばら いちか
松原 一花

趣味はウクレレとスノボ！特技はトゥブランの山道をバギーで駆け抜けることです！

笑顔は世界共通

私は色々な人と関わるのが好きです。新しいことを知り自分の視野が広がったり、自分の興味があることを見つけてことができるからです。このワークキャンプを知った時、自分の知らない世界を知れそう！楽しそう！とワクワクした気持ちになったので応募しました。

英語があまり得意でない私は、日本語が通じないフィリピンで現地の人たちとコミュニケーションが取れるか不安でした。フィリピンに着いて現地の人たちが笑顔で出迎えてくれた時、心が和らいで、これからの生活が楽しみになりました。実際、自分の伝えたいことを英語で伝えるのは難しく、思っていることが伝えられなかったときは「もっと英語が話せればな」と悔しい思いをしました。しかし、知っている単語やジェスチャー、表情で伝え、何とか相手に思いが伝わったときはとても嬉しかったです。

ファームステイ先でビサヤ語しか通じない人に出会ったとき、初めはどうやってコミュニケーションをとるか少し戸惑いました。しかし、とっさに日本から持ってきたあやとりをカバンから取り出して、マジックを見せたり、一緒にあやとりをして遊んだりしてコミュニケーションを取りました。はじめは、ポカンとした表情でしたが、徐々に表情が柔らかくなり、笑顔を見せてくれた時、言葉は通じなくても心と心が通じ合ったような感覚になりました。通じ合えるってこんなにも楽しいことなんだと感動したのを覚えています。

この経験から、言葉が通じなくてもなんとかしてコ

ミュニケーションをとりたいという心を身につけることができました。9月末の介護体験で中国人のおじさんに出会ったとき、ノートにイラストや英語を書いてコミュニケーションを取りました。おじさんの笑顔が見れた時はとても嬉しく、この感覚だ！と懐かしい気持ちになりました。

ワークキャンプを通して私は笑顔で積極的にコミュニケーションをとっていくタイプなのだと気づくことができました。現地の人が「あなたの笑顔は素敵」、「表情が面白い」と言ってくれたのが1番嬉しかったです。自分の表情は海外でも通じるんだと知れた瞬間でとても心に残っています。

また、私が体調を崩した時に優しい言葉をかけてくれたり、何も言わず飲み物を買ってくれたり、さりげない仲間の気遣いに心が染みて涙したことも思い出です。足りないところはメンバー同士でカバーし合いながら仲間と過ごしたかけがえのない10日間でした。個性溢れる西尾のメンバーに出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ワークキャンプ後もみんなと交流が続いていることがとても嬉しいです！これからもこの関係が続いていくといいなと思っています。

笑顔は世界共通で、すごいパワーがあると感じました。疲れてつらいと思う時もたくさんの笑顔に支えられ、励まされ、助けられました。私もトゥブランの人たちのように笑顔いっぱいの人でありたいと思います。トゥブランの人たちはとても明るくて面白くて、一緒に過ごしていて本当に楽しかったです。最後の交流では別れを泣いて惜しんでくれ、トゥブランとの熱い絆を感じました。またトゥブランに戻りたいと心から思っています。

フィリピンから帰ってきた後、スーパーや観光地、実習先やバイト先など日本で海外にルーツのある方と接する機会は意外と多いなと感じています。海外のルーツに関係なく、世界中のみんなが仲良く過ごせる世界になればいいなと改めて思いました。

私はこれからも日本人とか外国人とか関係なく、自分らしく笑顔で積極的にコミュニケーションをとることを大切に過ごしていきたいです。今回のワークキャンプを支えてくれた、西尾市の方々、イェン、ヤン、メンバー、出会った全ての人たちに感謝でいっぱいです。これからも派遣団メンバーと一緒に国際交流のため活動をしていきたいと思っています。

素敵な思い出をありがとう！トゥブラン大好きです！

column / Language フィリピンの言葉

現地では、ビサヤ語が話されていました！
フィリピンの中央部や南部で話されている言語で、タガログ語に次いで2番目に多い言語です。



Lami
ラミー

おいしい



Salamat
サラマー

ありがとう



Ako si ○○
アコーシー ○○

私の名前は○○です





みやち まっしも 宮地 真士最

西尾市立佐久島中学校(現佐久島しおさい学校)出身。元蒸気機関車運転手。現楽器修理職人。三河が生んだロックンロールスター(自称)。

何か1つでも

ワークキャンプを終えて数週間が経ち気持ちも落ち着いた今日、私は筆を取った。何を書こうか、何から書こうか。この派遣で学んだ事が多すぎて迷ってしまうので、おそらく他のメンバーが書かないようなエッセイを書きたいと思う。

今回、個性的な団員10名と共にフィリピンのセブ州トゥブラン市ヘコービー農園のボランティアへ参加した。事前研修で少しでもお互いの事を知っている10人と初めてフィリピンで10日間を過ごす。期待が大きく不安はほとんど感じていない自分とどう感じているか分からない他の9人で旅はスタートした。

自分が微量ながら感じていた不安。それは、果たして自分はこのメンバーの中でどういう存在なのかまだ分からないと言う不安だった。これだけ色々なメンバーが居る中で自分は何か特別な事が出来るだろうか。

そんな小さな不安の中、旅の舞台であるトゥブラン市に到着した。そこで自分たちを待っていたのは日本とは全く違う現地のローカルな雰囲気、食べ物、乗り物等、生活の全てが日本とは違い、最初は困惑した。

特に、最初の夕食の食事は量が多く驚いたが、この小さな予想外が自分の不安を取り除くことになった。自分は他人と比べてよりたくさんの量を食べる事が出来るのだ。その小さな出来事が自分の個性になる。そこからコミュニケーションが生まれたり、自分のキャラクターを認識する事が出来る。

現地の人との交流でカラオケが流れれば、それに合わせてアドリブでギターを演奏する。その小さなパフォーマンスが自分の個性になる。宿泊施設のトイレが故障したらそれを自分が直す。決して配管系の専門家ではないがなんとなく出来そうと思った。

それが勘違いだったとしても構わない。その小さなハプニングが自分の個性になる。自分にとっては普段何気ない事でも人前で思い切ってやるとそれが思わぬ成果に繋がる事になる。失敗を恐れずに思いっきりやろう。とりあえずやってみよう。何もしなければ何も起きないが何かをすれば何かが変わる。当たり前前の事だが、普段と違う環境に身を置く事でそれを再認識する事が出来た。

派遣を通して、場面を問わず色々な事が起こる。その度に自分に出来る事は何か、自分だったらどうするかそれを考えて行動する事の大切さを学ぶ事が出来た。別に完璧である必要もないし、その道の熟練者である必要もない。ただ何か一つでもこのメンバーの中で自分にしか出来ない事を探して実際に行動に移してみる。そうすると自分の在り方が少しずつ見えてくる。

そして、今度はそれを現地の人の前でやってみたりする。そうすると、もしかしたら自分のやった事は現地ではとても珍しい物かも知れない。何か一つでも自分にしか出来ないと事があればそれはとても価値のある物として受け入れてもらえるかも知れない。何か一つでも周りとは違う事があればそれを武器にして行動すれば何かが変わるかも知れない。何かを変えるのは人と違う自分に自信を持ってやってみる事から始まる。

10人の中で自分にしか出来ない事はもしかしたら80億人の中で自分にしか出来ない事かも知れない。何か一つでもそれがあればならやってみよう。やらないのはもったいない。

Messages from Staff



かとう けいすけ 加藤 瑠介

西尾市役所 市民部
地域つながり課 主事

西尾市では、現在人口の約7%が外国籍住民で、当面はこの割合が伸びていくことが予想されています。日常生活でも、西尾市内には外国人市民が経営する店舗が増え、商業施設や職場などでも多くの外国人市民を目にします。外国人の方とコミュニケーションを取ることももちろん重要ですが、それよりも重要なことは、日本の常識や自分の常識だけで全て考えるのではなく、いろいろな角度から物事を考えることだと思います。

ワークキャンプでは、現地の方と共に生活をし、フィリピン特有の生活環境や食文化などに戸惑いを感じた団員もいたかと思います。それでも、現地の環境を受け入れて積極的に行動し、何事も吸収しようとする団員の姿は、本当に頼もしかったです。体調不良者が出たり、スケジュールが変更したりするなど、トラブルもありましたが、全員で乗り切ることができました。みんなの協力があってこそです。感謝しています。

団員にとっては、ワークキャンプの全ての時間がかけがえのないものになったと思います。実際に現地に行って、目で見て、耳で聞かないと経験できなかったことです。その経験を大切にして、団員自身の将来への活動に活かしてほしいです。

ワークキャンプで行った地域への貢献、異文化交流という形の国際交流は、団員が将来の西尾市を担う重要な人材となる一助になったと思います。この素晴らしい事業が、今後も西尾市のために継続されるように、私自身も全力でサポートしていきます。



いぐち やすのり 井口 育紀

特定非営利活動法人NICE
(日本国際ワークキャンプセンター)

第3回目の派遣事業は、フィリピンのセブ島での開催となりました。留学やスタディーツアーとは異なる国際ワークキャンプとは、合宿型のボランティア活動です。日本人だけではなく外国人も共に生活して過ごしていきます。特に生活面。宿泊場所においては、地域住民の方々に寄り添って、同じように生活していくスタイルです。

プログラム運営中、日本とは勝手が違い、思い通りにいかない、予定通りにいかないことが多々ありました。そんな時、その出来事をどう捉えるか、どう行動していくか。試される場面です。『郷に入れば郷に従え』という言葉があります。活動中は相手のこと、出来事を受け入れること、尊重していくことを求められ、加えてポジティブに捉えていくことを、フィリピンで学んだことでしょう。

今の時代に求められる力のひとつに『レジリエンス』という言葉があると私は考えます。レジリエンスは『しなやかさ』とか『柔軟に対応していく力』と訳されます。負荷に耐えられなくてポキッと折れてしまうのではなく、負荷にもしなやかに耐える。参加者の皆さんは、そんなレジリエンスも大きく向上したのではないのでしょうか。このレジリエンスを兼ね備えた若者が、西尾市では毎年10名ずつ増えています。

さまざまな出来事に対して折れず、しなやかに対応できる人材は強い。まだ見ぬ未来を切り開いていく若者達。国際ワークキャンプを通して培った経験を、それぞれの今後の人生に、今後の西尾市にどう活かしていただけるのか、とても楽しみです。

最後に西尾市の皆様、今年も青年国際ワークキャンプ事業へのご理解とご協力ありがとうございました。



2024年度 西尾市青年国際ワークキャンプ派遣事業

[主 催]



西尾市市民部地域 つながり課

〒445-8501 愛知県西尾市寄住町下田22番地

T E L | 0563-65-2178 F A X | 0563-56-2175

Email | kouryu@city.nishio.lg.jp

[実施事業者]



西尾市国際交流協会

〒445-8501 愛知県西尾市寄住町下田22番地 (地域つながり課内)

H P | <https://nishio-nia.jp/>



特定非営利活動法人NICE (日本国際ワークキャンプセンター)

〒245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢8-3-1

Email | gw@nice1.gr.jp

H P | <https://www.nice1.gr.jp/>